

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202618		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花しのろ館 2階ユニット		
所在地	札幌市北区篠路3条8丁目9番66号		
自己評価作成日	令和2年9月13日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0170202618-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、地域の方との関わりが多く、町内会の一員として受け入れられている。そうした関係性の中で、認知症についての理解や対応が広まっている。グループホームの特性をより活かす為、また、入居者様の生活を支えて豊かにすることを目標に地域の方、ご家族、当館職員の三者一体で取り組む様になっている。行事では、準備段階から、ご家族に参加をして頂き、共に支えて、共に笑顔で過ごすことができ、当社理念の「らしさを活かして笑顔の花を咲かせます」を実践できた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に職員間で理念の唱和を行っている。また、毎月のユニット目標として、入居者様の「らしさ」を考えて、その笑顔につながることを掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は多く、入居者様が地域行事へ参加し、事業所の行事にも、地域の方が参加している。今年度は感染症防止のため交流は激減したが、ホーム庭にお花を植えて下さる等、地域の優しさがあふれる交流があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流により、地域の方が実際に入居者様に声をかけることが多くなり、認知症の理解につながっている。また、館より地域の方へ「菜の花通信」を発行し、その理解が深まる様、内容を精査している。認知症対応などの相談も直接あった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて、日常や行事の様子を報告している。ともに支える支援として、ご家族が行事の準備から参加をして頂き、その過程や内容について意見交換を行う事ができている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への入居状況の報告や札幌市管理者連絡会への参加の他、北区グループホーム連絡会で役員を務めるとともに協力関係を築けるようにしている。また生活保護課との協力関係も築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化指針をもとに身体拘束適正化委員会を設置している。カンファレンス、運営推進会議で議題として取り上げ、身体拘束を行わない事を基本方針としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び、日々の行動、言動をお互いが意識し、伝え合う事で虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で、権利擁護について学ぶ機会を持っている。すでに成年後見制度を利用する入居者様がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本社員が管理者、リーダーも同席の上で説明を行っている。ご家族、入居者様の思いを聴き、納得できるよう説明をし、それ以外の場面でも、常に話を伺う姿勢を保つ様になっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、行事などの場で日常の様子を伝えている。意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、カンファレンス内で意見や提案を聞く事が出来ている。反映できるものはすぐに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、外部研修への参加ができるようになってきているが、人員不足が続いている結果、参加がほとんど出来ず、職場環境が改善されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の技量により、内部、外部研修を受講してもらっているが、人員不足と新型コロナの影響により、内部研修が主になっている。会社が準備した介護技術の動画を利用し、育成をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会や研修会等へ参加することで、同業者との交流の場を持ち、情報共有を行っている。また、そこで得たものをサービスの質の向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学、面談があり、事前に色々話を伺って、生活歴や不安な事、やりたい事などを把握している。また、職員間で、その情報を共有し、ご本人が安心して生活できる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時前から、ご家族に話を聴く体制はできており、利用開始後も、面会や手紙、電話などで小まめに話ができる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報提供、ご本人、ご家族からの思いなどを聞いて、今必要としている支援内容の他、他のサービスの必要性を吟味し、提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる力を引き出すことで、主体性をもって頂く事を日々職員に伝えている。その上で、生活をともにする視点を持ち、入居者様との関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までは、行事などにご家族を招待し、おもてなしをすることを念頭にしていたが、三者一体（入居者様・ご家族・職員／以下同じ）をアピールし、行事の準備段階から、ご家族にもお願いをし、共に入居者様を支える関係づくりを築き始めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が年越し、お墓参りに出かける際には、直近の変化や体調について、ご家族に伝えて、安心して外泊や外出ができる様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関わりがスムーズになる様、職員が橋渡しを行っているが、関わりが良好とはいかない場合もある。その場合は、トラブルにならずに過ごせるように食席や過ごす環境を整備して、関係が悪化しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も関係性を大切にしており、必要に応じて、こちらから電話にて連絡をする事があった。また、手紙や年賀状なども頂き、ご家族から近況を伝えて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と直接話をして、意向や思いを聞くようにしている。それが困難な場合は、日々の表情や様子、そこからの気づき、生活歴シートを鑑み、意向や思いを汲み取る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴は、専用のシートに記入して頂き(主にご家族)、その情報を職員間で共有している。また、入居前の面談や入居後の会話(ご本人、ご家族)を通して、大事にしてきた生活や考え方を聴いて、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々の様子から各職員が気づいたことを専用のシートに書きとめたり、介護記録により、暮らし方や心身の状況、有する力(可能性も含めて)を職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と話し、生活の意向や意見、要望を聞いている。また、担当職員によるアセスメント、モニタリングをもとに生活上の課題やケアの有り方を職員間で検討し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ご本人の様子や気づいたこと、ケアの経過や結果を個別記録に記載している。職員は、毎日それに目を通し、日々の申し送りにて、その情報の共有とケアの実践の検証を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望により、受診や買い物代行など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の会合への参加が主である。車椅子の方でも参加をする事ができ、町内の方と1日過ごす事もできている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の可否は、ご本人、ご家族の希望をしっかりと聞いた上で決定している。医療機関と連携を密にとり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、本社の訪問看護師が健康管理を行っている。職員は、各入居者の状態説明をできる様、日々、情報の確認と把握を行っている。それを当看護師に伝達し、相談の上、入居者様が必要な看護と医療を受けられる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、先方へ情報提供書を提出し、日常の様子などを細かく伝えて、入院中も安心して治療できるように協力している。退院時も、事前に病院へ行き、情報提供を受けて、退院後の支援に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の対応指針について説明を行っている。終末期が予測される際は、ご本人または、ご家族に意向を確認の上、看取り介護の指針を説明している。医療機関とも連携し、ご家族、ホーム、医師と話し合う機会をつくり、方向性を協議している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを目のつく所に貼って、発生時の対応手順を把握できる様にしている。また、ほとんど全ての職員が救命救急講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っている。地域との連絡網があり、火災など災害時は協力体制を取れる様になっている。火災訓練の他、地震と水害訓練も実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、敬語を基本とし、人生の大先輩に対して、敬う気持ちを持ち接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、簡単に答えられるような質問をする事で自己決定をしてもらえるよう支援している。意思表示の難しい方は日常の様子や簡単な選択で希望を汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ペースを大切にしているが、職員不足により、職員の都合を優先している場合がある。毎月のカンファレンスにて業務の見直しを行って、ペースや希望を優先できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に身だしなみが整えられるように支援している。男性入居者様が多く、髭剃りをできるだけ毎日できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には、食事の味付けをアドバイスしてもらっている。食事の準備は、できる限り、一緒に台所でお手伝いをしてもらう事もあるが頻度は低い。現在、入居者様との食事は、感染防止のため行っていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や嚥下状態に合わせた食事内容や形態で提供している。水分に関しては、ゼリーや果物、アイスなどを提供し、摂取量が確保できるようにしている。栄養状態に関しては、栄養スクリーニングで定期的に確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを支援している。毎食後の歯磨き、仕上げ磨き、舌ブラシを行うことで清潔保持と口腔内のトラブルが起こらない様に支援している。入居時は、訪問歯科の検診を行って、治療が必要な場合は対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔やパターンを把握して、情報を共有の上、失敗が少なくなる様に対応している。おむつ使用の方は、できるだけ個々に合った物を使用して、不快感なく、また、肌トラブルがない様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による影響については理解できている。水分量や飲む物の工夫をし、野菜ジュースを飲む事で便秘の解消となる方には、継続して飲んで頂く様に支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日、時間帯は決めていないが、職員不足により、午前での入浴対応となる事が多く、希望が叶えられていない場合がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、体力に応じて休息をとれる様にしている。夜間は眠れるように個々に合わせた室温や暗さに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診記録と共に薬情報を確認している。新しく処方された薬がある場合は、副作用に注意しているが、職員により、薬の知識量に差がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族から情報として頂いた生活歴を1冊のファイルにして、再度職員が確認できる様にしている。また、新しい情報などあれば、記入をして情報共有し、役割や楽しみごとに繋げる工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの外の花が見たいと近隣を散歩したり、個別支援でドライブ、買い物へ出かけた。コロナ禍の為、夏祭りなどの行事では、ご家族、地域の方の参加はなく、内部での開催となった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に少額のおこずかいを所持している方もいるが、必要物品の買い物は、ご家族か事業所で代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはなかったが、入居者様の希望があれば、管理者カーリーダーが入居者様の希望を電話で伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花や装飾品を飾っている他、お正月には、神社を作り、初詣をした。おみくじも近隣の神社で購入したおみくじを引いて頂き、季節や昔からの習慣を継続できるように工夫をした。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様間のトラブルもあるため、状況により、共用空間の工夫を行っている。食卓やソファ、テレビ位置を変更して心地よく過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらっている。看取り期に入った方が、居室にて、ご家族とゆっくり一緒に過ごせる様にした他、入居者様が生活音や人を感じられるように工夫をした。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりが設置されており、トイレなどもわかりやすく表示、歩行器や車椅子がスムーズに通れるよう動線も確保している。		